

2022年5月12日
在グアテマラ日本国大使館

公開情報のとりまとめは以下の通り。

1 内政

（1）ジャマテイ大統領の健康状態に関する発表

ジャマテイ大統領が9月2日夜、災害事態宣言及び外出禁止措置などの大統領令の発効を記者会見において発表した際、大統領が急に痩せた様子であったため、重い病気であるとの情報源未確認の情報が流れたが、翌3日、ジャマテイ大統領自身が右情報を否定する以下のメッセージを発表した。

大統領は、「自分（ジャマテイ大統領）が死にかけているとの匿名の音声データが出回っているようだが、自分はエネルギーに満ちている。現在取り組んでいる断続的断食（インターミitttent・ファスティング）のおかげで50ポンド（約23kg）体重を落とすことができた。確かに（そのせいで）スーツが大きくなってしまったが、パンデミックへの対処の方が重要だ。このようなデマは相手にせず、前に進もう。」とのメッセージを發した。

（2）若年層および女性の移民増加

グアテマラの国連人口基金（UNFPA）及び国際移住機関（IOM）のグアテマラ事務所、またUSAIDは、2018年の国勢調査データに基づいて作成した報告書「グアテマラにおける国際移住の特徴」を発表した。同報告書によると、近年、移民の構成が変化しており、移住のペースが加速し総人口に占める移民人口の割合が増加していることが判明した。

中米出身者の移民はこれまで長らく中年層の男性であったが、現在では家族再会に留まらず、経済的理由、治安、雇用機会のために移住する若年層、それも女性が増加している。加えて、2018年の国勢調査の報告によると、2002年から2016年にかけて女性の移民が最も多いのは20歳から24歳の層であった。しかしこの傾向は近年、2017年から2018年にかけて変化しており、現在では15歳から19歳の女性層の移民が最多となった。また、今次報告では、2002年に移住していたのは主にラディーノ（先住民と欧州系の混血）だったが、現在はマヤ系先住民の移民がラディーノを上回っていることが分かった。

2018年の国勢調査を元にした2020年の移民推定数は130万人で、総人口（推計1,685万人）の7.8%、2030年には同指標が8.3%に達すると予想される。

（3）サンドバル元検察庁無処罰問題対策専門局長に対する逮捕状の発出

2日、検察庁は、ポラス検事総長によるビデオメッセージを通じ、7月に更迭されたサンドバル元無処罰問題対策専門局（FECI）長に対して捜査が行われている旨発表し、翌3日、

サンドバル元 FECI 局長に対し、義務不履行及び刑法妨害の罪状により逮捕状を発出した。サンドバル元 FECI 局長は自身のツイッターにて、ポラス検事総長の発表および逮捕状の発出に対し反論した。

また、3日の逮捕状発出後、米務省西半球局はSNSで「ニカラグアの野党に対する虚偽の法的措置、エルサルバドルの司法権独立の喪失、そしてサンドバル氏に対する告発、すべて今週の出来事である。我々は中米で無処罰特権、汚職、権威的な政府と闘う人々を支持する。」とコメントした。

(当館注：サンドバル元 FECI 局長は多数の汚職事件の捜査に関与し、CICIG(グアテマラ無処罰問題対策国際委員会。2006年開始、2019年終了)存続時には、当時のテルマ・アルダナ検事総長の下、歴代政府幹部や政府関係者などの汚職を捜査・告訴してきた。7月23日にポラス検事総長により更迭され、米国へ亡命した。同氏の更迭は国内外からの批判を引き起こした。)

(4) 憲法裁判所による汚職等に関する刑法の一部失効の決議

憲法裁判所は9月3日、横領や汚職によって懲役刑が科された場合、懲役刑の代わりに罰金刑を科することができるよう刑法の一条項の一部失効を決議した。同決議により汚職や横領による5年以下の懲役刑は罰金刑への置き換えが可能となり、それを認めるかは各裁判官の裁量に委ねられることとなった。汚職者に資する決議であるとして市民団体などから批判が出た。

(5) フローレス保健大臣の辞任及びコマ新保健大臣の就任

フローレス保健大臣は9月14日、ラジオ局のインタビューにて自身の辞任を発表し、16日、コマ保健次官が新たな保健大臣に任命された。

(6) 独立200周年記念式典

9月14日から15日にかけて、当国独立200周年の祝賀式典(独立記念日は9月15日)が開催され、14日、ジャマテイ大統領は国会にて「国家としての団結」を呼びかける演説を行った(15日、国家文化宮殿での式典開始時にも、国会演説と同様の内容の演説を行った)。なお、14日及び15日、農民開発委員会(CODECA)を中心に政府反対デモ及び道路封鎖が全国的に呼びかけられ、国家文化宮殿前の憲法広場でも反政府デモが行われたが、警備側との衝突などの問題は生じなかった。

2 内政(新型コロナウイルス関連)

(1) グアテマラの感染状況

検査実施数が少ない週末・祝日の一時的な低下を除き、9月上旬は5,000件/日前後であったものの、月末にかけ新規感染者数は減少し、下旬は3,000件/日前後で推移した。なお、9月6日~19日適応の規制では全340市中89%(過去最大)が「赤」となった。また、依然として国内の主要コロナ病院は満床状態であった。

(2) 「アラート信号」システム

期間	赤	橙	黄	緑
8月23日～9月5日	289市	32市	29市	0市
9月6日～19日	305市	21市	14市	0市
9月20日～10月3日	300市	31市	9市	0市

注：2020年7月27日から開始された「アラート信号」システムに関する詳細は当館HP (https://www.gt.emb-japan.go.jp/itpr_ja/border20200331.html) を参照。

(3) ワクチン接種・登録

8日より18歳以上のワクチン接種が可能となった。26日より慢性疾患のある12歳から17歳へのワクチン接種が開始し、30日より12歳から17歳までのワクチン接種登録が開始された。

(4) ワクチンの到着

ア 2日、COVAXファシリティを通じファイザー社のワクチン16.9万回分（購入）がグアテマラに到着した。

イ 4日、COVAXファシリティを通じカナダ政府からアストラゼネカ36.3万回分（供与）が到着した。

ウ 6日、COVAXファシリティを通じドミニカ共和国政府からアストラゼネカ30.4万回分（供与）が到着した。

エ 16日、COVAXファシリティを通じスペイン政府からアストラゼネカ30.7万回分（供与）が到着した。

オ 18日、スプートニクV70万回分が到着した。

カ 26日、スプートニクV50万回分が到着した。

(5) 災害事態宣言と夜間の外出禁止措置等の発令及び失効

2日夜、ジャマティ大統領は記者会見を開き、全国民・全セクターの同意を得るのは不可能であるが、新型コロナウイルス蔓延と感染急増に対処するためにはより厳しい対応が必要であるとして、改めて30日間の災害事態宣言の発令と夜間の外出禁止（夜20時から翌朝4時まで）等の措置を発表した。

これらの承認のために国会において協議・調整が継続していたが、9月6日夜、国会は災害事態宣言を再度否決し、同宣言及び大統領令は失効した。

(6) 妊婦及び授乳婦へのワクチン接種の許可

1日、政府は妊婦及び乳幼児を持つ母親へのワクチン接種を許可すると発表した。

(7) ミュー株の発見

2日、国内でミュー株2件が発見された。空港水際での発見ではなく、旅行歴のない国

民の検体から発見された。

(8) コロナ患者の受け入れ中断

8月後半よりグアテマラ市産業パーク内コロナ専用臨時病院が満床かつ医療品の不足のため、患者受入を中断した。また、8日、チキムラ県およびサカパ件の国立病院が同じ理由により、新たなコロナ患者の受入が不可能であると発表した。なお、6日、キューバの医師団11人が応援として産業パーク内コロナ専用臨時病院での対応を開始したが、依然として新たな患者受入を開始しなかった。しかし、産業パーク内コロナ専用臨時病院では29日より新規患者受入を再開した。

(9) 国会での緊急事態法の承認

13日、国会は、コロナ感染症に関連する物資調達や医療従事者の雇用契約、12歳から17歳へのワクチン接種等に関する緊急事態法（議員立法）を賛成票137票で承認した。

(10) スプートニクVのインターバル期間の変更

30日、保健省はスプートニクV接種の1回目と2回目のインターバル期間について、当初61日間としていたものを28日間に変更した。

4 外交

(1) グアテマラ人移民のペテン県への強制送還の停止

米国からの強制退去移民が、メキシコにより移民受入れ機能を有さないペテン県エル・セイボに送還され人道危機に面していた問題に関連し、3日、グアテマラ外務省はメキシコ政府と調整し、エル・セイボへの送還は停止される旨発表した。メキシコとの合意により、今後はエル・セイボではなく、サンマルコス県テクン・ウマンの帰国者受入れセンター（陸路）またはグアテマラ空軍基地（空路）に送られることとなった。

(2) ポラス検事総長の米国エンゲル・リストへの追加

9月20日、米務省はポラス検事総長及びアンヘル・ピネダ検察庁部長（国際関係・協力担当）をエンゲル・リスト（lista Engel。当館注：中米三カ国の汚職関係者と反民主主義者のリスト。）に追加したと発表した。これに対し、ジャマテイ大統領及び当国検察庁は事実無根であると反論した。

(3) ジャマテイ大統領のCELAC首脳会合出席

18日、ジャマテイ大統領はメキシコで開催された第6回ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）首脳会合へ出席した。加えて、メキシコ、エクアドル、コスタリカと二国間会談を行った。

(4) 第76回国連総会におけるジャマテイ大統領演説

22日、ジャマテイ大統領は第76回国連総会において一般討論演説を行った。ワクチンの公平な分配、気候変動対策、台湾の国連参加などを含む国連改革について発言した。

(5) ジャマテイ大統領の米州機構常設会議参加

30日、ジャマテイ大統領は、米州機構常設会議にオンラインで参加した。新型コロナウイルスのパンデミックを克服し、繁栄の壁を構築するための新しい解決策のための各国の協力を呼びかけた。

5 経済

(1) 中米・韓国自由貿易協定（FTA）加入交渉

26日、マルーフ経済大臣一行は、中米・韓国FTA加入交渉のため韓国を訪問し、通商部との会合を実施した。

(2) コーヒー産業

コーヒーの国際価格の上昇、国際的需要（生豆、焙煎豆、インスタントコーヒー）の増加を受け、コーヒー産業は年間成長率3.8%を記録した。なお、1月～7月の輸出量は前年比で5%増加した。

◇主要経済指標◇	2021年			2020年	2019年
	9月	8月	7月		
インフレ率（前年同月比）	3.67%	3.62%	3.82%	3.21%	3.70%
貿易収支（百万ドル）	△1,087	△1,185	△1,093	△6,692.3	△8,710.9
輸出（百万ドル）	1,188.4	1,130.8	1,196.0	11,514.2	11,170.5
輸入（百万ドル）	2,276.1	2,316.7	2,289.4	18,206.5	19,881.4
外貨準備高（百万ドル）	19,827.2	19,810.4	19,167.1	18,468.2	14,789
外国からの送金（百万ドル）	1,299.3	1,388.6	1,354.3	11,340.4	10,508.3
為替レート（対ドル月平均）	7.73	7.74	7.75	7.72	7.69

（出典：中銀、国立統計院）